



第4章

重点施策及び EBPM 方式による政策推進

重点施策及びEBPM方式による政策推進

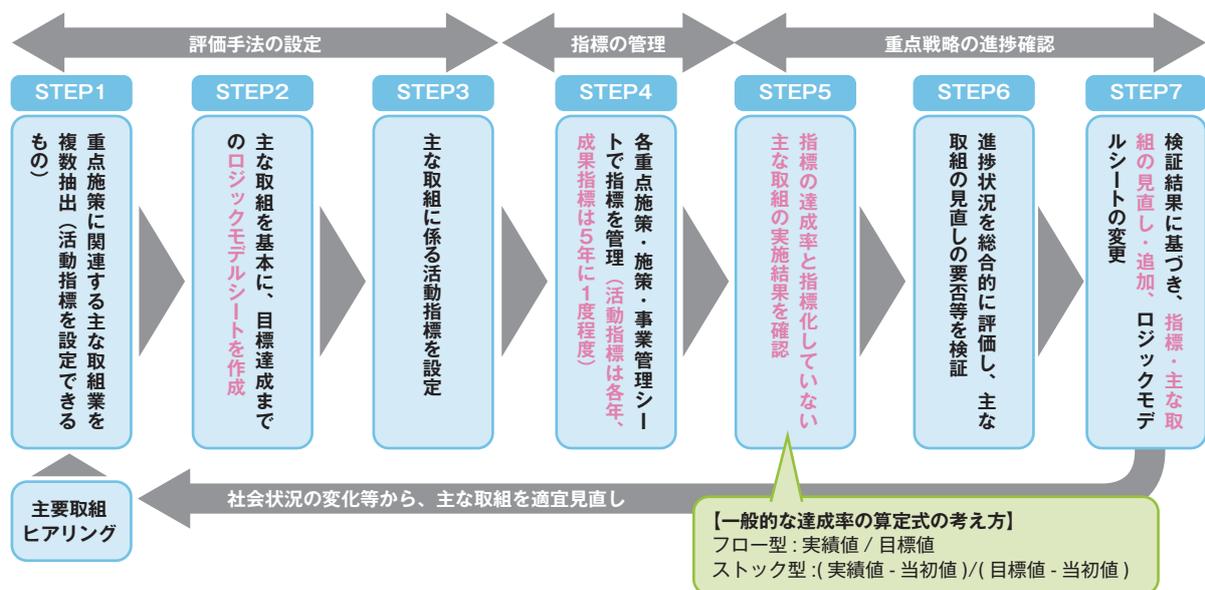
1

政策推進の考え方

近年、政策の目標や効果を数字で示そうとする取組の重視度が増してきています。本市でも、第四次宇部市総合計画における数値目標やその進捗評価、第2期宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPIの設定や進捗状況評価などを行っています。評価結果をみると、多くの場合はある程度数字の達成はできているのですが、人口減をはじめとした都市運営に重要な指標について改善できていない状況もあります。

こうした状況に対して、内閣府が主導して「政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的根拠（エビデンス）に基づくものとする」という指針を出しました。EBPM（Evidence-Based Policy Making）と言われるこの指針は、政策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータを活用して、政策の有効性を整理・確認するものです。

本計画では、各基本方針の中で、中心となる施策を中心に重点施策を組み立て、その取組をタイミング良く実効的に進めて行くことにより各施策や事業を連動して機能させていくことを想定しています。下図STEP1～STEP7に沿って、各基本方針についてのありたい姿を想定し、評価手法の設定から立案、指標の管理、そして重点施策の進捗確認を着実に進めて行くことを想定しています。

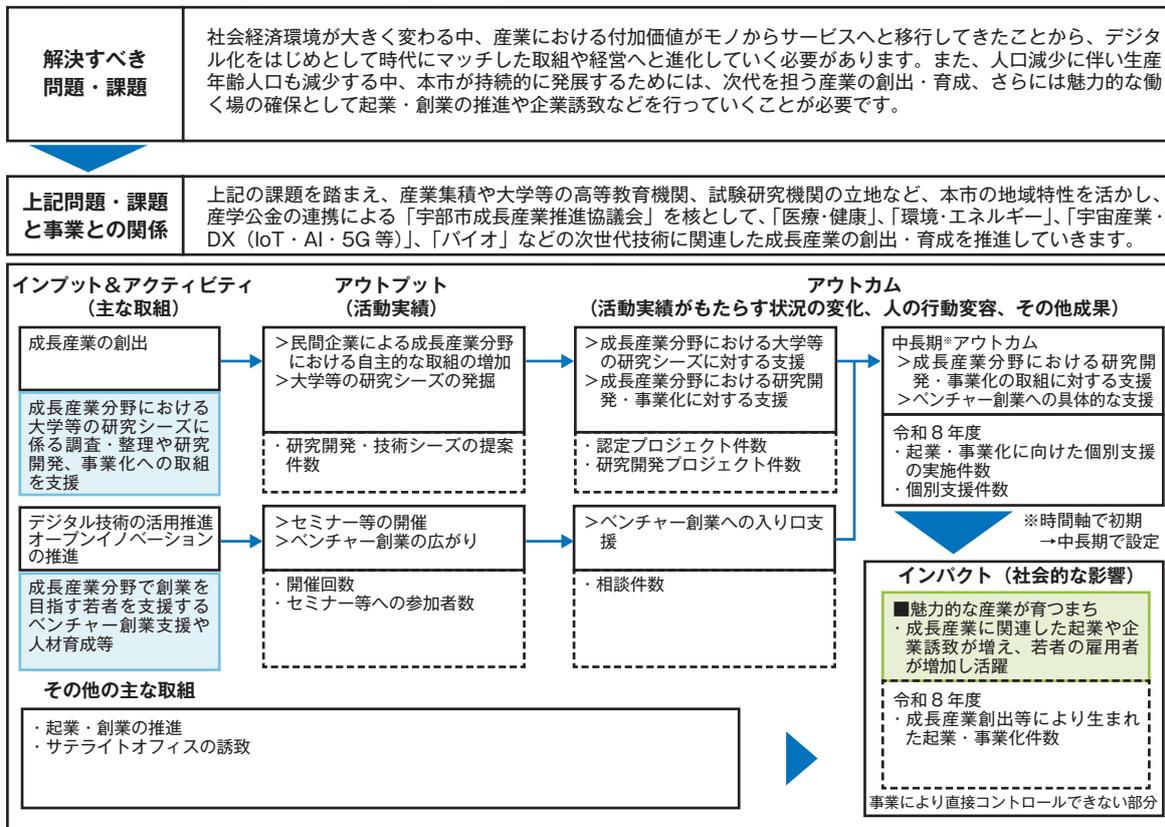


図表 4-1 重点施策の進捗管理の全体像と行政評価との関係図

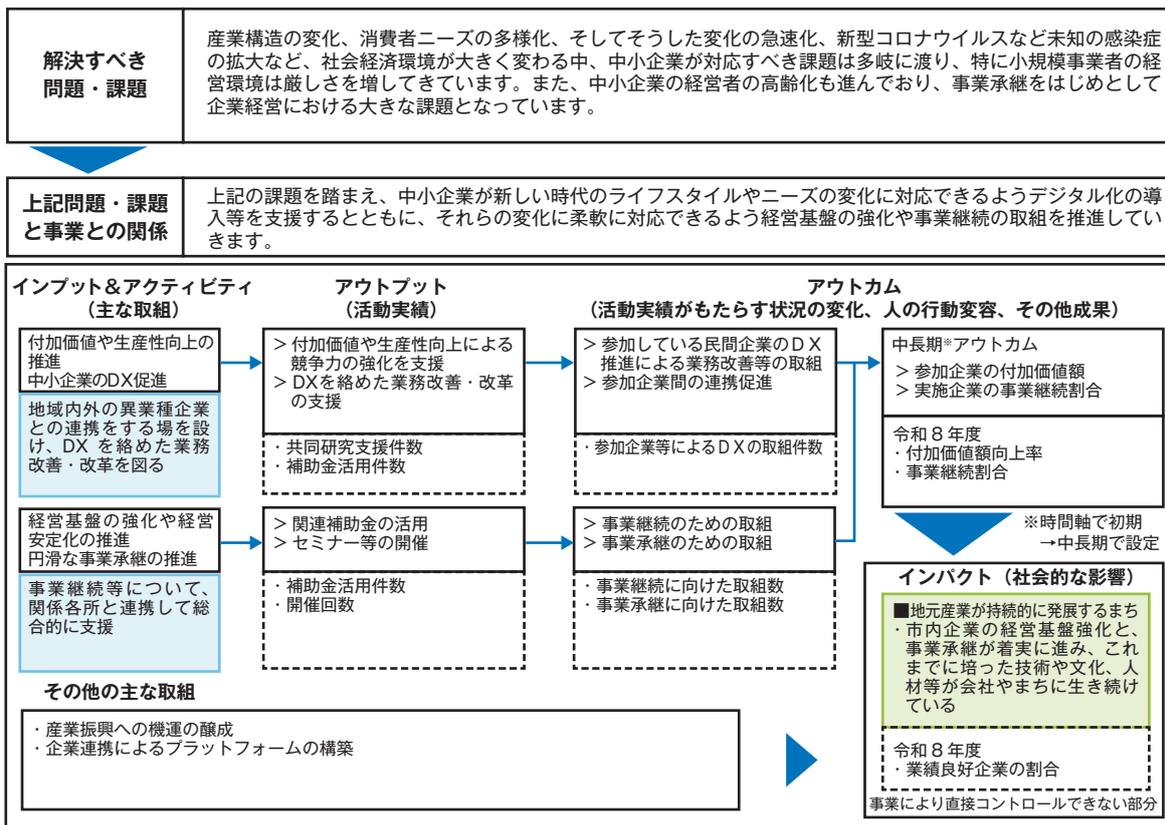
2

4つの重点施策

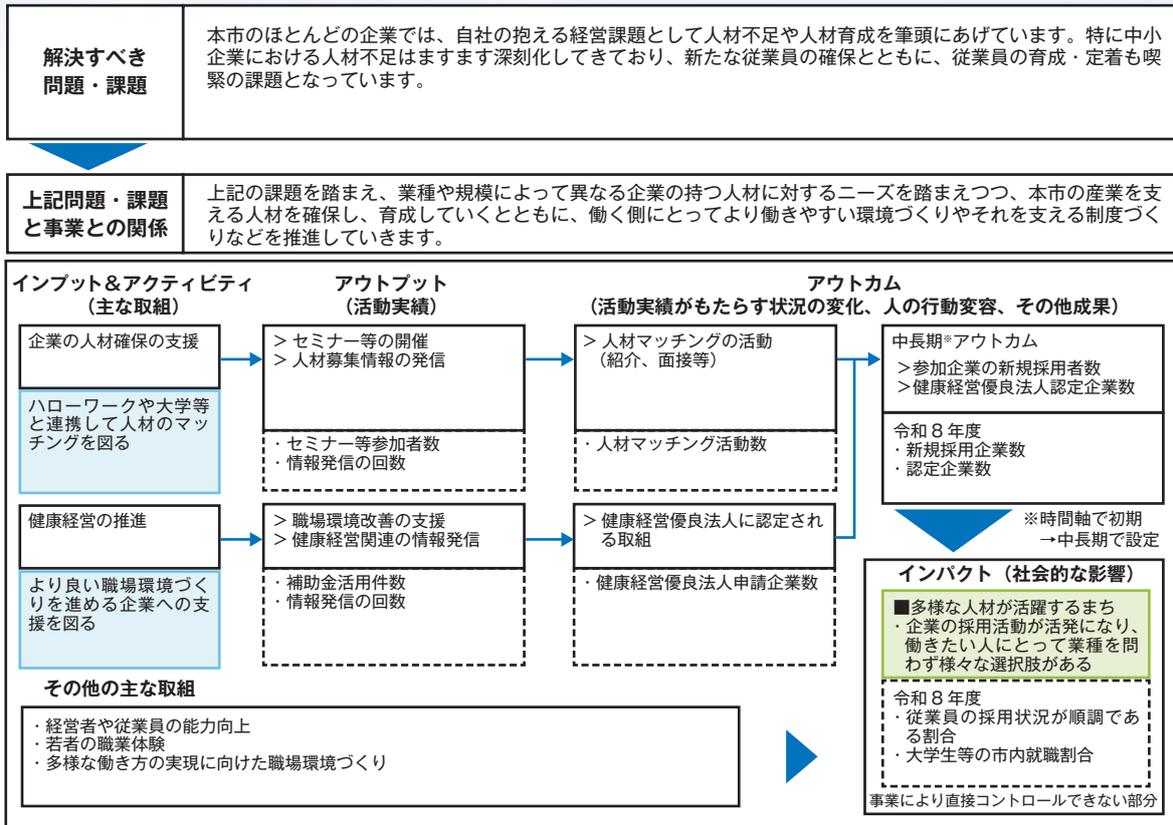
【重点施策1：成長産業の創出と育成】ロジックモデルシート



【重点施策2：経営基盤強化と事業継続の促進】ロジックモデルシート



【重点施策3：産業を支える人材の確保・育成】ロジックモデルシート



【重点施策4：人が集う場や機会の創出】ロジックモデルシート

